

第3回中学生交流プログラム
【マレーシア】

平成23年10月2日～10月9日

使節団派遣実施報告書

平成23年11月7日



社団法人国際フレンドシップ協会

も く じ

口絵 (1)~(2)

まえがき

I. 「第3回中学生交流プログラム」について	2
II. マレーシア訪問団日程	3
III. 団員名簿	4
IV. 活動の記録	5
・ 2011年10月 2日 結団式、事前研修	
・ 2010年10月 3日 マレーシア到着、プトラジャヤ見学	
・ 2010年10月 4日 クアラルンプール市内見学、大使館表敬訪問	
・ 2010年10月 5日 マラッカ市内見学	
・ 2010年10月 6日、7日 セランゴール州シャーアラム第9区小・中学校訪問、交流、日本文化紹介	
・ 2010年10月 8日 ロッテワールドでの交流、民族博物館	
・ 2010年10月 9日 帰国、解団式	
V. 感想文	10
・ 感謝と感動の毎日	内馬場 梓紗 10
・ 中学生交流プログラムに参加して	柏 可奈子 10
・ 中学生交流プログラムに参加して	川本 眞子 11
・ 日本と異なる環境	田中 恵一 12
・ 中学生交流プログラムに参加して	樋口 豪 13

奥付

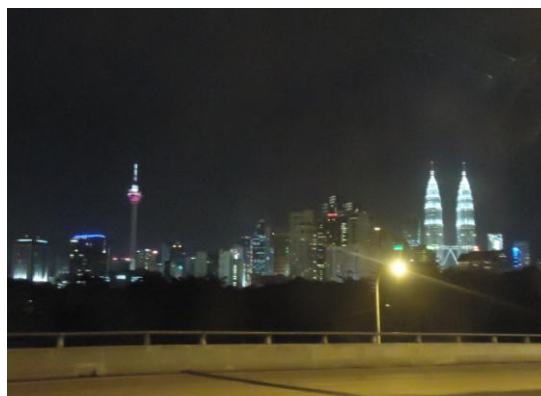
セランゴール州シャーアラム第9区小・中学校訪問、交流、文化紹介



10月2日、1泊2日事前研修



10月3日、クアラルンプール到着



日本国大使館表敬訪問



クアラルンプール市内見学



国立モスク

コンピューター工場

マラッカ市内見学



訪問校とブルーモスク



青雲亭

オランダ広場

ホストファミリーと見学ツアー



バティック工場



帰国、解団式



まえがき

「第3回中学生交流プログラム」(マレーシア)は、公益財団法人かめのり財団のプログラムとして社団法人国際フレンドシップ協会が実施運営を行い、2011年春に団員募集を開始し、全国から応募の中、書類審査と面接審査を経て、9月はじめに5名の団員が決定しました。

本プログラムは海外研修と位置づけられ、出発前の1泊2日の事前研修と7日間の現地研修からなります。本小冊子では、各団員が研修の一環で分担した日にちごとの報告と全体の感想文を取りまとめ、記録にとどめます。

参加団員には、本記録を読み、各訪問先で出会ったマレーシアの人々や温かく迎え入れてくれた学校、そしてホストファミリーの皆さんに感謝の気持ちを改めて感じ、そこでそれぞれが考え、誓ったことをもう一度思い出してもらえればと思います。また、一緒に過ごした団員が何を思い何を感じていたかを改めて慮る機会になれば幸いです。

Web等を通じて本小冊子をご覧になられた皆様には、マレーシアについて知る機会となり、さらにはご自身の国際交流について考えるきっかけになればとスタッフ一同心より願っております。

2011年11月

社団法人国際フレンドシップ協会

I. 第3回中学生交流プログラムについて

公益財団法人かめのり財団は、平成18年（2006年）4月に文部科学省の許可を得て設立されました。財団名は、創設者・康本健守（やすもとけんもり）の父・亀範（かめのり）に由来します。活動目的は、日本とアジア・オセアニアの若い世代との交流を通じて、未来にわたって日本と各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、その懸け橋となる人材を育成することにあります。

中学生交流プログラムは平成21年度から始まり、アジア・オセアニア各国に日本の中学生を派遣する事業です。第1回は、平成22年3月に中国に中学生7名を派遣しました。第2回の平成22年度は派遣先を韓国とし、同世代の中学生や現地の人たちと様々な形で交流し、相互理解を図るとともに、外国語を学ぶことの意義や異なる文化間でのコミュニケーションの重要性、韓国の歴史、社会、文化、教育等に対する理解を深めました。

平成23年度の今年度は、マレーシアに日本の中学生を派遣し、現地の中学生にも日本に対する理解を深めてもらいながら、両国の友好関係の促進を図るとともに、マレーシアの文化、歴史、社会、教育を直に見て感じることを目的としました。

本プログラムの実施運営を行う、社団法人国際フレンドシップ協会（IFA）は、外務省所管の公益法人として、昭和44年（1969年）創設され、以後、日本と各国とのさまざまな事業を行っています。中でも27年間組織している「ジュニア大使友情使節団」（小学5年生から20歳未満の学生）の海外派遣を訪問先公的機関の後援で運営しており、その実績からこのプログラムを担当します。

IFAは、今回の研修旅行の参加者がマレーシアでの生活体験と交流活動を通して国際理解と友好の精神を体得し、将来広い視野をもち国際社会で活躍してもらいたいと願っています。

■受入機関

マレーシア教育協会

セランゴール州シャーアラム第9区小・中学校

■実施期間

平成23年10月2日（日）都内前泊

事前研修

平成23年10月3日（月）～10月9日（日）マレーシア研修、全6泊7日

■団員 5名（全国公募を行い、応募者を作文審査と面接審査により選抜）

Ⅱ. マレーシア訪問日程

	月日	都市	時間	交通	内容	宿泊
1	10/2 日	成田	13:30		集合、結団式 事前研修（マレーシア事情、国際マナーとエチケット、渡航安全対策等）	成田泊
2	10/3 月	成田 クアラル ンプール	10:30 16:45	MH089 専用バス	成田空港発 クアラルンプール空港着 途中 プトラジャヤ を車内から見学 しつつ市内へ移動	ホテル泊
3	10/4 火	クアラル ンプール	終日	専用バス	クアラルンプール市内見学 （歴史、文化、産業） 在マレーシア日本国大使館表敬訪問	ホテル泊
4	10/5 水	マラッカ	午前 午後	専用バス	移動（クアラルンプール→マラッカ） マラッカ市内見学 （青雲亭寺院、オランダ広場他） 学校訪問の準備	ホテル泊
5	10/6 木	クアラル ンプール	09:00 午前 午後 夕刻	専用バス	セランゴール州第9区小・中学校 学校訪問・交流 （授業見学、日本文化紹介、 生徒との交流ほか） ホストファミリーと対面	ホームステイ
6	10/7 金	クアラル ンプール	午前 午後		ホストファミリーと過ごす ホスト生徒と学校へ	ホームステイ
7	10/8 土	クアラル ンプール 近郊 クアラル ンプール 発	08:30 09:00 14:00 23:30	車 専用バス MH088	ホストファミリーとホテル集合 ホスト生徒とともに体験学習 （ゴム園、パティック染） ホスト生徒とのお別れ バツー洞窟見学 クアラルンプール空港発	機内泊
8	10/9 日	成田着	07:40 09:00 10:00		成田空港着 空港にて解団式 解散	

Ⅲ. 団員名簿

NO	氏 名	男女	県	学 校 名	学年
1	内馬場 梓紗	女	東京都	杉並区立和田中学校	中 3
2	柏 可奈子	女	愛媛県	東温市立重信中学校	中 3
3	川本 眞子	女	鹿児島県	鹿児島大学教育学部附属中学校	中 1
4	田中 恵一	男	東京都	渋谷区立松濤中学校	中 1
5	樋口 豪	男	東京都	千代田区立九段中等教育学校	中 2
6	団長 山本 伸	男		社団法人国際フレンドシップ協会 講師	

IV. 活動の記録

◆2011年10月2日（日） 結団式、事前研修

朝 9:00 にいよいよ鹿児島から羽田への飛行機に乗りこんだ。バス→飛行機→バス→バスでわたしはとうとう集合する成田に着いた。

楽しみにしていたマレーシアでの交流は、母から教えてもらった。「作文書いてみたら。マレーシアに行けるよ。」はじめはよく分からなかったが、調べてくれたのを見てみた。わたしははじめ、迷っていたが、はじめての東南アジアのマレーシアに行くことはドキドキでおもしろそうだったので、応募して、今、このマレーシアに行けることになった。楽しみだったけど、少し不安もあった。わたしは家族に背中をおされてマレーシアをしっかりみてこようと決めた。

成田で一日目は研修会があった。メンバーは 5 人で団長が 1 人の小さなグループだ。明日からこの 6 人でマレーシアに行くとすると、とてもわくわくした。

団長さんにも言われたが、わたしはマレーシアでとにかく「ありがとう」とあいさつを心がけようと思う。日本語で「ありがとう」、中国語で「謝謝」、英語で「Thank you」、マレー語で「Terima kasih」小さなことでも言われれば笑顔になってくれる。マレーシアには中国系、インド系、マレー系の人たちが住んでいて、民族が様々なので、それぞれ言葉がちがうみたいだが、共通語はマレー語と英語だそう。それに、あいさつはかんたんなのですぐに分かってくれると思う。「Terima kasih」は通じるので、感謝の気持ちでいたい。マレーシアで楽しい交流、楽しいホームステイ、楽しい見学ができるといいです。

(川本 眞子)

◆2011年10月3日（月） マレーシア到着、プトラジャヤ見学

朝 6 時に morning call がかかってきて起き、朝食バイキングを食べてバスに乗り成田空港へ。そして IFA と家族の皆に見送られ、マレーシアへ出発。意外なことにマレーシア行きは多く、飛行機がほぼ満席状態。機内食は「チキン or フィッシュ」で食後にはバニラアイスもあり、最高。途中すごくゆれて落ちてしまうかとあせったけれど、約 7 時間を経て到着。

飛行機から降りた瞬間ムンムンして「マレーシアに来た」と実感。入国手続き中に担当の人に「your hair beautiful!」と言われたけれど、はじめは何を言ってるのか分からなくてすごくあせった。

そこから案内してくれたのは林（リン）さんと運転手のマサさん。リンさん

は日本語も上手で、車の中でも多くのことを教えてくれた。中でも驚いたのはモスク（礼拝場）に男の人は毎週金（日）曜日に必ず行かないといけなくて、行かなかつたら罰金もしくは刑務所行きになるということ。イスラム教徒としては当たり前かもしれないけれど、私からしたら厳しすぎると思った。他にもKL（クアラルンプール）などは本当に東京よりも都会で、すごくビックリした。道路も複雑だけどかなりキレイくて、普通道でも制限速度 80km とかで速い!

夕食はマレー料理で海鮮類だった。ちょっと辛かったり、初めて見る貝などもあったけどおいしかった。ホテルも 19 階で高いし、キレイだし最高。明日もすごく楽しみ。

ちなみに今日は Terima kasih. (ありがとう)、Apa khabar? (元気ですか)、Selamat petang. (こんにちは) を使った。

(柏 可奈子)

◆2011 年 10 月 4 日 (火) クアラルンプール市内見学、
在マレーシア日本国大使館表敬訪問

マレーシアに来て 3 日目。今日、一番印象に残ったことは、ペトロナスツインタワーの目の前を通ったことである。今までずっと見てみたかった建物をすぐ近くで見れたのですごくうれしかった。特に東京タワーの 333m を越える 452m はとても迫力があつた。驚いたこともあつた。スコールだ。いきなり台風のような強い雨が降ってくる。傘を少しささないだけでもびしょびしょになってしまった。スコールには十分に気をつけていきたいと思う。

日本大使館ではマレーシアについて多くのことを学んだ。特に印象に残ったことは衛生だ。「水道水を飲んではいけない」など、マレーシア生活で体を壊さないために大切なことを教わつた。以後、気をつけていきたい。

クアラルンプールでは買い物をした。キーホルダーや洋服、くつなどのたくさんものがあり、どのような物が売られているのかがよく分かつた。料理は朝、昼がマレー料理、夜は中華料理。全ておいしかった。林さんのガイドも楽しく分かりやすいのでとても楽しく見学できた。

今日はとても楽しい 1 日だった。明日からも楽しく過ごしていきたいと思う。

(田中 恵一)

◆2011年10月5日（水） マラッカ見学

今日はマレーシアの起点、マラッカに行きました。私達は約1時間かけて歩いて見学しました。

まず最初はお寺。日本の寺とは違い、ものすごくハデな色合いでまつられている神様は3人もいます。次にオランダ広場。マラッカの建物は、オランダの植民地だった頃につくられたものなので、KLとはまた違った雰囲気でした。次にセントポール教会へ。ここは、フランシスコ・ザビエルが実際にいた所で、ザビエルの遺体がおかれていたというおりの下は、異様な雰囲気で、神聖な感じがしました。セントポール教会から見下ろすマラッカの街並はとても美しく、遠くではマラッカ海峡がキラキラ輝いていて素敵な景色でした。

今日の昼食はニョニャ料理という、マレー料理と中華料理がまざった様な料理でした。ラクサというココナッツミルクのカレーやかき氷に黒糖がかかったデザートなど、不思議なものが多かったです。

世界遺産、そしてマレーシアの起点であるマラッカに行けて、とても貴重な体験が出来たと思います。

(内馬場 梓紗)

◆2011年10月6日（木）、7日（金）

セランゴール州第9区小・中学校訪問、交流、日本文化紹介
ホームステイ

10月6日、初めてマレーシアの学校に行った。ホスト **sister** のフェリッサは同じ年で、初めて会ったときに笑いかけてくれたのでホッとした。文化紹介ではきんちょうしたが、わたしはマレーシアの小学生の前で着付けをした。生け花、合気道、書道、そろばん、着付けを披露し、日本の文化を紹介することができた。

その後、ホスト **sister** と中学校に行き、大きな部屋で交流を始めた。マレーシアの学校では、みんなで輪を作って、いろんな遊びを教えてもらった。日本の遊びもおもしろいが、マレーシアの遊びはとても単純で分かりやすかったので、日本に帰ってから友達に教えたいな、と思った。中学校の子も小学校の子も女の子はイスラム教のえいきょうで、頭にはスカーフをかぶり、長そで、長スカートという制服だった。みんなフレンドリーで、わたしが歩いていると必ず声をかけてくれたし、初めて会った子にも学校を案内された。みんながどんどん声をかけてくれたおかげできんちょうもほぐれ、今日はすごく楽しい1日

を送ることができたのでよかった。

(川本 眞子)

今日の午前中にホストファミリーの人達と面会しました。とても緊張しました。その後のマレーシアの楽器でのえんそうは、とても美しく素晴らしかったです。その後、ホストファミリーの子どもと一緒に学校を見学しました。マレーシアの学校は日本と違って給食ではなく、食堂でみんなであつまって食べる形でびっくりしました。その次に日本の文化紹介をしました。皆それぞれ、そろばん、合気道、ピアノ、生け花、着付けをやりました。私は合気道をしました。頭が真っ白になって、うまくできませんでした。でも皆拍手してくれたのでうれしかったです。

PM6:00 頃にホストファミリーの親がむかえにきてくれました。その後アリフと一緒に楽しくゲームをしました。Hard な 1 日でしたがとてもワクワクした 1 日でもありました。

(樋口 豪)

◆2011 年 10 月 8 日 (土) ホストファミリー同行での体験学習

今日は、ホストファミリーと一緒にプランテーション (大農場) とバティック工場に行きました。プランテーションには、ジャックフルーツやヤシの実など、日本に無いフルーツがたくさんありました。たくさんのゴムの木があり、木の皮をはいで樹液をとるところから、固まったゴムをうすくのぼし、乾燥させるまで見学させてもらいました。私のホストファミリーは、色々なことを私に教えたくて必死に辞書を引いて日本語で伝えてくれるのが嬉しかったです。

移動のバスでマレーシアでも大人気の **K-Pop** を歌っておどっていたら、あっという間に次のバティック工場に着きました。(バティックはチャンティングという道具でろうをたらして模様を描くマレーシアの伝統的なろうけつ染めです) 皆それぞれ世界に 1 つのオリジナルバティックが出来ました。チョコレート屋さんでドリアンやマンゴーなど色々なチョコの試食をした後、空港に行き、またマレーシアに帰ってくる約束をして、ホストファミリーとお別れをしました。皆、私達が見えなくなるまでずーっと手をふっていてくれました。最初は長いかなと思っていた 1 週間はあっという間でした。

この貴重な体験は生涯忘れることはないでしょう。

私はぜひまたマレーシアを訪れたいです。
(内馬場 梓紗)

◆2011年10月9日(日) 帰国、解団式

昨日の PM8:00 頃、ホストファミリーと涙の別れと再会の約束をし、飛行機に。そして PM11:50 頃マレーシアを飛びたった。

マレーシアでの 1 週間はほんといつという間で「帰りたくない」という気持ちでいっぱいだった。この 1 週間で数多くの貴重な体験を経験でき、このプログラムにとっても感謝しているとともに参加したこと、できたことを本当に良かったと思う。今年の中 3 でこのプログラムには 2 度と参加することはできないけれど今回得たことをこれからに生かし、こういった機会があればどんどん参加していきたいと思う。

(柏 可奈子)

V. 感想文

感謝と感動の毎日

東京都杉並区立和田中学校 3年
内馬場 梓紗

年齢を聞くまで、ずっと同級生だと思っていた、しっかり者で学校中の人気者でもあるホストシスターのアキラ (AQILAH)。中1の彼女の学校の授業はほとんどが英語のイマージョンで、皆、何ら不自由を感じずに授業を受けていた。私の通う中学とは英語に接する時間が絶対的に違う。そのことが何よりも羨ましく感じた。

アキラは滞在中、常に私に気を遣ってくれ、さりげなく荷物を運んでくれたり、健康にまで気を配ってくれた。彼女の家族もみな同様に、マレーシアの人々のホスピタリティの高さに、毎日、感謝と感動を感じて過ごした。

お別れの日、家族全員が空港まで見送りに来てくれた。アキラは、私に内緒で「チョンカ」というゲームをお土産に用意してくれていた。皆でいつも楽しく遊んだ思い出の品だからだ。「必ずまた会おうね」という約束を、私は絶対に守ることだろう。

中学生交流プログラムに参加して

愛媛県東温市立重信中学校 3年
柏 可奈子

あっというまの1週間だった。行く前の不安がうそだったかのようにマレーシアでの1週間は本当に充実していて楽しかった。

マレーシアに着いた直後の印象は「都会」だ。東南アジアということから田舎というイメージをもっていた私は特にKLの高層ビルが立ち並び東京並みの都会っぷりにとても驚いた。その後の1週間でも驚くことはたくさんあったが本当にマレーシアに行けて良かったと心から思える。そう思えるのもマレーシアの人々があたたかかったからだと思う。一見気難しそうな人でも私たちが「スラムパギー」などとあいさつをすると笑顔で返してくれ、すごく嬉しかった。さらに学校では、男女をとわず寄ってきてくれたり、すれ違っても「Hi」や「こんにちは」と笑顔で言ってくれて、皆すごくフレンドリーで本当に楽しかった。さらにホストファミリーの皆は本当に本当に優しくてホームステイはとても楽

しかった。どんなに英語が分からなくても、分かるまで簡単な単語やジェスチャーを使ってくれた。5人の兄弟たちも皆すごくフレンドリーでどんどん寄ってきてくれてとても楽しかった。実際一緒に過ごしたのはたった3日間だけどこんなすばらしい家族に迎えてもらえて本当に幸せだった。空港では別れがさみしくて泣いてしまったけど絶対再会することを誓いマレーシアを後にした。

今回の訪問でマレーシアの魅力に触れ貴重な体験をし、さらに、ホストファミリーをはじめ多くの人と深いつながりをもつことができ本当に良かったと思う。このような機会を与えてくださったかめのり財団の方々にとっても感謝している。そして今回学んだことを残り少ない中学校生活、これからに生かしていきたい。

中学生交流プログラムに参加して

鹿児島県鹿児島大学教育学部附属中学校 1年
川本 眞子

マレーシアで過ごした1週間はとても心に残るものでした。ホストファミリーはとても優しく、寂しい思いはしませんでした。訪問した中学校では、私は最初どきどきしていましたが、ホストシスターのフェリッサが友達をたくさん紹介してくれました。友達も皆とてもフレンドリーでとても嬉しかったです。

その中学校では日本ではあまり意識することのない宗教というものに触れることができました。校内の礼拝室で生徒がお祈りをしていたり、授業前にはクラスの生徒が何かを唱えているのを見て、イスラム教の世界を少しだけ身近に感じることができました。また、民族衣装を着せてもらったのもいい思い出になりました。ホストマザーにはお土産にきれいな色のバジューロン（民族衣装）やトドン（ショール）を買ってもらいました。

研修中に他の団員には、たくさん声をかけてもらい、同じ学年の男の子や、中2のお兄さん、中3のお姉さんたちがいたことで、楽しく過ごせました。団長の山本先生にもしっかり指導してもらい、安心して過ごすことができました。これから先もマレーシアの人達や団員の仲間とずっとつながってほしいです。

皆さん、本当にありがとうございました。

今回僕は、団員に選ばれた時に日本と異なる環境を学ぶことを目標に考えた。そして、ホームステイを中心に、たくさん学べるだろうと考え、ホームステイを楽しみにしていた。

ホームステイに行く前に団員の人達と仲良くなり市内見学を楽しんだ。市内見学では、モスクの広さに驚き、またマラッカのオランダ広場では数多くの世界遺産に感動した。

そして、10月6日。学校訪問終了後、待ちに待ったホームステイ。僕のホストファミリーは同じ中学校 1 年生のアシマン君がいる家だった。アシマン君一家はイスラム教徒でありアシマン君は人柄が良く優しく、日本語がすごく上手な医者を目指す頭の良い人だった。会って直後のアシマン家に行く時にまず驚かされた。車で家に入る前に複数の家を取り囲むゲートが二つもありどちらとも警備員がライフルを携えていた。家にはお手伝いさんが 3 人もいた。

家で一緒に生活すると、さらに驚くことが沢山あった。例えば毎日「欠かさず」5 回礼拝する。食事の時は右の素手を使う。僕も右手だけでの食事に挑戦した。しかし、3 分程でギブアップ。炊き立てのご飯はとても熱く、右手だけで食べるのはとても難しかった。さらに肉を右手の指先でちぎることはとても難しく肉がつめと指の間に入り込んでしまった。しかし、アシマン一家を含む現地の人達は顔色一つ変えずに涼しい顔で食べていた。

アシマン一家では片言の英語や覚えたばかりのわずかなマレー語、伝わらない時はジェスチャーを使ってコミュニケーションをし、ゲームで遊んだりして楽しんだ。

このように、マレーシアの研修旅行は特にホームステイを中心にとっても楽しく、また自分にとって大切な思い出、財産となった。

最後になりますが自分を受け入れてくれたアシマン一家の皆さんとこんなに楽しい企画をして下さったかめのり財団、国際フレンドシップ協会の皆さん、そして山本団長、本当に有難うございました。

中学生交流プログラムに参加して

東京都千代田区立九段中等教育学校 2年

樋口 豪

私は今回の訪問先であるマレーシアで学んだことが二つあります。まず一つ目は人種と言語です。マレーシアには主にマレー人、中国人そしてインド系の人がありました。そのどの人たちもフレンドリーで明るく話しかけてくれました。多文化国家ですが、その国の良い所をたくさんあわせもつ国でした。日本も他の文化の良い所を取り入れてほしいと思います。

そして二つ目は宗教です。イスラム教を国の宗教とするマレーシアでは、一日に5回礼拝するのがきまりです。私のホストファミリーの人も5回礼拝していました。イスラム教は豚肉も禁止なのでマレー料理には入ってなかったです。

今回の学習はとても良い貴重な体験をさせていただいたと思います。ここで学んだことを今後生かせれば良いなと思います。

以上

本プログラムに情報提供ならびにご協力くださった皆様に
心より感謝申し上げます。

(順不同、敬称省略)

マレーシア

Malaysian Association for Education (MAE)

会長 Prof. Dato' Dr. Ibrahim Ahmad Bajunid

事務局次長 Mr. Perianan Ramanathan

夫人 Mrs. Sharada Nair

副会長 Dr. Abu Bakar Hashim

夫人 Mrs. Normah

マレーシア教育省

セランゴール州シャーアラム第9区小・中学校

外務省在マレーシア日本国大使館

参事官(広報文化部長) 佐藤輝

一等書記官 木塚俊博

LONCA TOURS & TRAVEL SDN BHD 柏倉さおり

現地ガイド Mr. Lim

現地ガイド Mr. Yap

Pearl International Hotel Sales Manager Mr. M. C NG

日本

公益財団法人かめのり財団 理事・事務局長 西田浩子

外務省文化交流部総合計画課 企画官 大内 晃

日本通運株式会社 課長 渡辺雅之

日本通運株式会社 係長 斎藤正明

成田ビューホテル マネージャー 斉藤浩文

第3回中学生交流プログラム報告書

平成23年11月7日

実施・運営 社団法人国際フレンドシップ協会

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12

麻布台ロイヤルプラザ502号

実施責任者 及川 伊佐子

電話 03(3582)3021 FAX 03(3582)3010

Web: <http://www.ifa-japan.org>